

平成24年4月の解説（週間天気予報）

【4月の天候状況】

上旬は、北・東日本を中心に冬型の気圧配置となった日が多く、また、西日本、沖縄・奄美では移動性高気圧に覆われた日が多くなりました。このため、北日本と東日本の日本海側では曇りや雨または雪の日が多く、東日本の太平洋側、西日本、沖縄・奄美では晴れた日が多くなりました。3日から5日にかけては、急速に発達しながら日本海を進んだ低気圧の影響により、北日本から西日本の各地で大荒れの天気となりました。

中旬は、旬の前半は、天気は周期的に変わりました。旬の後半は、オホーツク海高気圧の影響により、北・東日本の太平洋側では雲が広がり気温も低くなり、北海道の太平洋側では顕著な低温となった日がありました。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、前線や湿った気流の影響により曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、旬のはじめは、オホーツク海高気圧の影響で、北・東日本の太平洋側では雲が広がり気温も低くなった地域がありました。一方、低気圧の影響により西日本の太平洋側を中心に大雨となり、西日本の各地で風が強まり荒れた天気となりました。その後は低気圧と高気圧が交互に通過し、北日本から西日本にかけて、天気は周期的に変わりました。東日本の太平洋側と沖縄・奄美では、低気圧や湿った気流の影響により曇りや雨の日が多くなりました。また、沖縄地方は28日ごろ、奄美地方では29日ごろに、平年よりかなり早く梅雨入りしました（いずれも速報値）。

月平均気温は、北日本で低く、東日本で平年並となりました。西日本、沖縄・奄美では高くなりました。月降水量は、北・東日本及び西日本の太平洋側で平年並、西日本の日本海側で少なくなりました。沖縄・奄美では多くなりました。月間日照時間は、北日本の太平洋側、東日本の日本海側、沖縄・奄美で少なくなりました。西日本では多く、北日本の日本海側、東日本の太平洋側では平年並となりました。

【4月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では例年値^(注)より3ポイント高い73%でした。地方毎の適中率は、東北地方、関東甲信地方及び北陸地方では7～10ポイント高くなりました。

最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国的に例年値程度か例年値より小さく、東北地方、関東甲信地方及び北陸地方で例年値より0.6～0.8℃小さくなりました。全国平均では例年値より0.3℃小さい2.5℃になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差も、全国的に例年値程度か例年値より小さく、東北地方、九州北部地方及び九州南部地方では例年値より0.5～0.6℃小さくなりました。全国平均では例年値より0.2℃小さい2.0℃になりました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6月の週間天気予報の利用にあたって】

6月は、日本の南海上に停滞していた梅雨前線が次第に北上し、平年では、6月上旬から中旬ごろにかけて、西日本、東日本及び東北地方では梅雨入りとなり、曇りや雨の日が多くなります。また、オホーツク海高気圧が強まると、梅雨前線の北側にあたる地方では太平洋側の地方を中心に冷たい北東の風が吹き込むため気温が低くなります。このような状態が長期間続くと、日照不足や低温によって農作物の生育不良などが起こります。

梅雨前線やオホーツク海高気圧などの動向により、天気や気温は大きく影響されますので、週間天気予報による向こう一週間の天気や気温の予想を利用して、農作物の管理等に活用して下さい。